

証券コード：5907

第 57 期

---

# 株 主 通 信

---

2017年4月1日 ▶ 2018年3月31日



JFE コンテナ 株式会社

## ご挨拶

株主の皆様には日頃より格別のご支援を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。

さて、当社の第57期（平成30年3月期）株主通信をご高覧いただくにあたり、ご挨拶申し上げます。

当期におけるわが国経済は個人消費が回復傾向を維持し、堅調な設備投資や世界経済の拡大による輸出の増加とあいまって緩やかな成長が続きました。製造業分野では機械や電子部品、化学などの生産が好調で、建設分野も設備投資の回復などから需要が堅調に推移しております。

当社グループの事業分野である産業用容器業界におきましては、ドラム缶の主要需要分野である石油化学業界が市況の上昇や国内外需要の増加を背景に高水準の生産を続けており、全国の200リットル新缶ドラムの出荷数量は、前期比3.6%増の1,413万缶となりました。需要分野別では化学分野が4.0%増、石油分野が4.1%増、塗料分野が2.3%増と好調な需要を反映して各分野で増加しました。また、高圧ガス容器につきましては水素ステーションの本格整備に向けた動きが進んでおり蓄圧器用途の需要の本格化が見込まれます。

このような需要環境の下、当期における当社グループの連結業績につきましては、売上高307億63百万円（前期比12.1%増）、営業利益26億30百万円（同9.0%減）、経常利益27億23百万円（同8.2%減）となり、親会社株主に帰属する当期純利益は19億53百万円（同3.4%増）となりました。

当期の期末配当につきましては1株当たり75円の配当とさせていただきますこととなりました。当社は、平成29年10月1日を効力の発生日として、10株を1株とする株式併合を実施しており、

当該株式併合を踏まえて計算した場合、中間配当は50円となりますので、1株当たりの年間配当金は125円となります。

今後の経営計画につきましては、第6次中期計画（2018～2020年度）を策定し、以下の中期企業ビジョン、経営方針のもと、計画達成に向け諸施策を実践してまいります。

### <中期企業ビジョン>

常に時代を先んじ、世界最高の技術をもって顧客の夢を実現し、安全・健康で豊かな社会づくりに貢献する「産業容器の開拓者」、小さくても自由闊達にして活気あふれる「ナンバーワングローバル企業」を目指します。

### <経営方針>

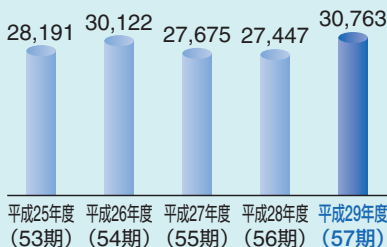
- (1) 国内ドラム事業の競争力強化
- (2) 中国ドラム事業の量・質的成長と収益拡大
- (3) 高圧ガス容器の事業化

### <重点施策>

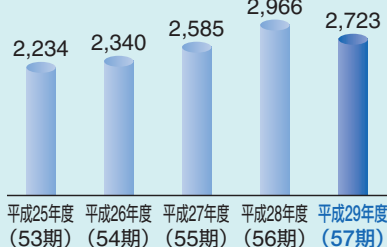
- (1) 国内ドラム事業の競争力強化
  - ① 機能維持・改善投資や先進技術・設備の導入、計画的修繕の徹底などにより持続的な成長基盤を確立する
  - ② マーケットや需要家のニーズの変化に即応した新商品開発の加速と成長分野の需要開拓強化
  - ③ 業務効率化・働き方改革に向けた自働化/IoT、RPA技術などの積極的導入
- (2) 中国ドラム事業の量・質的成長と収益拡大
  - ① 拡販強化によるグループ販売数量1,100万缶超えの達成

## 決算ハイライト（連結）

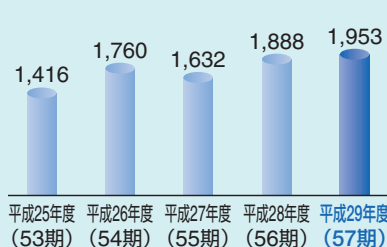
### 売上高（単位：百万円）



### 経常利益（単位：百万円）



### 親会社株主に帰属する当期純利益（単位：百万円）



② 4工場の効率的生産体制の追求  
 ・華東地区一体運用、各工場の強みの最大活用など

③ 収益基盤強化策の実行

- i. 安定操業、安定品質の徹底
- ii. 効率的要員体制
- iii. 調達方法の多様化
- iv. 高機能商品の積極的導入
- v. 新規ビジネスモデル構築を含む拡販策の実行

(3) 高圧ガス容器の事業化

・研究開発から商業事業化へ（2020年度に事業黒字化を目指す）

① 医療用酸素容器（小型FRP容器）の拡大

② 水素関連容器の本格供給

「水素ステーション用蓄圧器」

「小型商用車用車載容器」

「鉄道車両、小型船舶、無人機など関連機器向け容器」

③ 小型乗用車・商用車用車載容器の開発

< 中期経営目標 >

持続的な成長基盤、安定的な収益基盤を確立するため、人と技術、設備に経営資源を集中投入する。

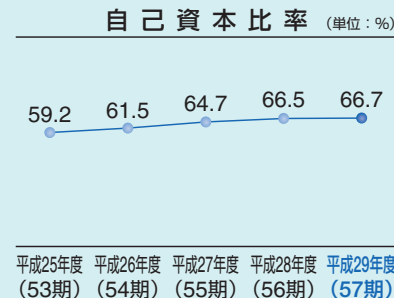
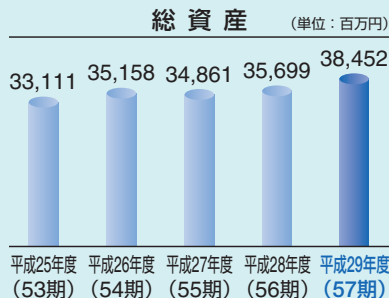
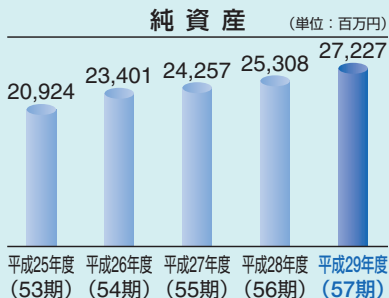
	2017年度	中期経営目標 (2020年度)
① ドラム缶販売数量	9,813千缶	11,000千缶
② 売上高	307億円	320億円
③ 経常利益	27.2億円	30.0億円

	2015～2017年度実績	第6次中期経営計画 (2018～2020年度)
① 設備投資・修繕費	ベース	実績比
② 研究開発費		50%増

当社グループは、今後も企業価値のさらなる向上を目指し、株主の皆様のご期待に応えてまいりたいと考えておりますので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



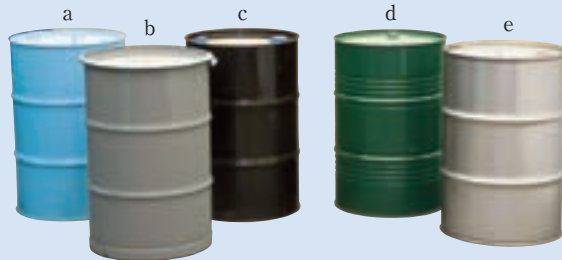
代表取締役社長 小野 定男



## ドラム缶事業

当期の当社グループ(日本及び中国)のドラム缶販売数量は、981万缶(前期比2.0%増)となり、売上高は304億68百万円(同12.5%増)、経常利益は27億94百万円(同9.2%減)となりました。

ドラム缶事業は、国内及び中国での販売数量増とドラム缶の値上げにより増収となりました。収益面では販売数量増と品種構成の改善、工場での自主保全活動の取り組みによる生産性向上と故障率低減によりコストダウンは進んだものの、鋼材価格上昇が収益を圧迫し減益となりました。



- a. 一般缶…一般的なドラム缶で、石油・化学関係等に使用されている
- b. S-オープン…強度に優れたリユースオープンドラム缶
- c. ケミドラム…ポリエチレンの内装と鋼製の二重構造の缶
- d. エコフェザー…高張力鋼板を使用した薄肉ドラム缶
- e. ステンレスドラム缶…長期間(20年程度)使用可能なリユース缶

## レリーフドラム缶

胴に浮き彫り模様を加えた缶で、胴のパネル強度が向上します。



目立つ外観で、一目で判別できます。内面は、外面と凹凸が逆になります。

## 高意匠プリント缶

あらかじめプリントした鋼板を使用することで、従来にない個性的かつ美しい外観のドラム缶を実現しました。

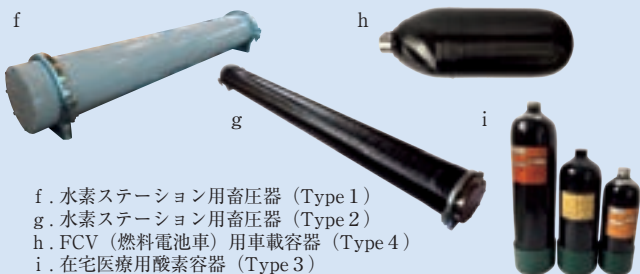


お客様のアイデア次第で圧倒的な存在感を演出します。

## 高圧ガス容器事業

当期の業績は、売上高は2億94百万円(前期比17.4%減)、経常損益は1億31百万円の損失(前期は1億86百万円の損失)となりました。医療用酸素容器は、国内での高齢化と在宅医療の拡大に対応した生産能力向上対策を行い、引き続き数量を伸ばしております。なお、水素ステーション用蓄圧器の開発も順調に進んでおり、予定どおり2018年度に市場投入を図ってまいります。

医療用酸素容器のさらなる拡販と、高圧水素ガス容器新商品の本格的な市場投入を進め、当事業の黒字化を目指してまいります。



- f. 水素ステーション用蓄圧器 (Type 1)
- g. 水素ステーション用蓄圧器 (Type 2)
- h. FCV(燃料電池車)用車載容器 (Type 4)
- i. 在宅医療用酸素容器 (Type 3)

# トピックス

## 千葉工場 CSラボに「テクノルーム」を開設

### 商品や技術を展示 最適なドラム缶を提案

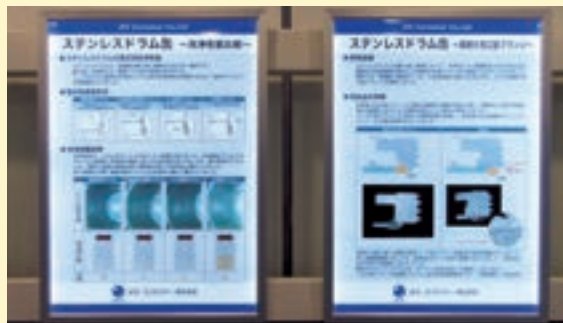
このたび、千葉工場に併設するCSラボに「テクノルーム」を開設いたしました。

CSはカスタマー・サティスファクションを意味し、CSラボは、ドラム缶商品の品質・性能検証、新商品の研究開発、最適容器の提案など顧客対応の役割を担っております。

JFEスチールの製鉄所内という立地を活かし、容器特性を知り尽くした専門家である当社は、鉄鋼素材に豊富な知見を持つJFEスチール研究所と、各種検査・分析機器と高度な実験技術を有するJFEテクニサーチと連携し、お客様に最適なソリューションを提供することが可能です。

今回設置いたしました「テクノルーム」は広さが31㎡で、昨年12月に完成いたしました。壁面はドラム缶を内部から見たようなデザインになっており、壁の両面に沿ってパネルやデジタルサイネージなどでCSラボの機能を紹介しています。また、お客様の要望を実現した「ニーズ型」の新商品として、軽量で低コストを実現したステンレスドラム缶や、新たな用途・機能を提案する「シーズ型」のコンセプトドラム（試作品）として、内容物が内面にこびり付きにくくした「こびりつかん」、ICタグが装着可能な「ICタグドラム缶」、胴体にデザインプリントを施した「高意匠プリント缶」など、各種ドラム缶を展示しています。

当社の技術研究や新商品開発への取り組みをお客様へ積極的にPRしていくため、「テクノルーム」をフルに活用してまいります。



# 連結財務諸表 (要約)

## 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	第57期	第56期
	平成30年3月31日現在	平成29年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	20,688,985	18,029,182
固定資産	17,763,453	17,670,282
有形固定資産	14,839,141	14,687,470
無形固定資産	511,745	542,266
投資その他の資産	2,412,565	2,440,545
<b>資産合計</b>	<b>38,452,438</b>	<b>35,699,464</b>
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	9,636,840	8,259,793
固定負債	1,588,544	2,131,544
<b>負債合計</b>	<b>11,225,384</b>	<b>10,391,337</b>
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	24,697,164	23,103,250
資本金	2,365,000	2,365,000
資本剰余金	4,649,875	4,649,875
利益剰余金	17,693,244	16,098,117
自己株式	△10,954	△9,742
その他の包括利益累計額	959,870	639,278
その他有価証券評価差額金	271,136	242,700
為替換算調整勘定	727,002	546,323
退職給付に係る調整累計額	△38,268	△149,746
非支配株主持分	1,570,018	1,565,598
<b>純資産合計</b>	<b>27,227,053</b>	<b>25,308,126</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>38,452,438</b>	<b>35,699,464</b>

## 連結損益計算書

(単位：千円)

科目	第57期	第56期
	平成29年4月1日から平成30年3月31日まで	平成28年4月1日から平成29年3月31日まで
売上高	30,763,515	27,447,431
売上原価	23,494,235	20,003,695
売上総利益	7,269,280	7,443,736
販売費及び一般管理費	4,638,757	4,551,480
営業利益	2,630,522	2,892,255
営業外収益	284,283	234,158
営業外費用	190,855	160,053
経常利益	2,723,950	2,966,360
特別利益	77,855	—
特別損失	29,818	81,088
税金等調整前当期純利益	2,771,987	2,885,271
法人税等	840,993	962,955
当期純利益	1,930,993	1,922,315
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△22,105	34,013
親会社株主に帰属する当期純利益	1,953,099	1,888,302

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	第57期	第56期
	平成29年4月1日から平成30年3月31日まで	平成28年4月1日から平成29年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,762,558	3,159,963
投資活動によるキャッシュ・フロー	△899,759	△719,595
財務活動によるキャッシュ・フロー	82,350	△1,064,129
現金及び現金同等物に係る換算差額	13,538	△93,731
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	958,688	1,282,507
現金及び現金同等物の期首残高	4,460,574	3,178,066
現金及び現金同等物の期末残高	5,419,262	4,460,574

## 連結株主資本等変動計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本				その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額			その他の包括利益累計額合計
平成29年4月1日残高	2,365,000	4,649,875	16,098,117	△9,742	23,103,250	242,700	546,323	△149,746	639,278	1,565,598	25,308,126
当連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△357,971		△357,971						△357,971
親会社株主に帰属する当期純利益			1,953,099		1,953,099						1,953,099
自己株式の取得				△1,212	△1,212						△1,212
株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額)						28,435	180,678	111,477	320,592	4,419	325,012
当連結会計年度中の変動額合計	—	—	1,595,127	△1,212	1,593,914	28,435	180,678	111,477	320,592	4,419	1,918,926
平成30年3月31日残高	2,365,000	4,649,875	17,693,244	△10,954	24,697,164	271,136	727,002	△38,268	959,870	1,570,018	27,227,053

# 会社情報・株式情報

会社所在地	〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町1丁目5番15号
電話番号	03-5281-8511 (代)
設立年月	昭和36年4月
資本金	2,365,000,000円
従業員数	262名
発行済株式数	2,867,500株
決算日	3月31日
株式上市市場	東京証券取引所 市場第二部
業務内容	ドラム缶、高圧ガス容器の製造・販売

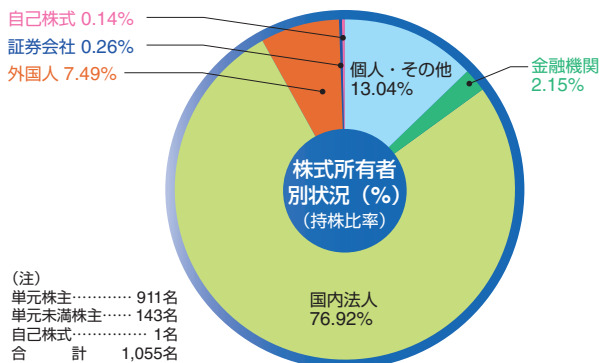
## 取締役および監査役 (平成30年6月22日現在)

代表取締役社長	小野定男
常務取締役	大崎恭紀
常務取締役	久保正幸
常務取締役	安達広志
常務取締役	岡部隆
取締役	吉田直人
取締役	木原幹人
取締役	三浦浩行
取締役(社外)	實川正治
監査役(常勤)	今井賢一郎
監査役(社外)	宮城順一
監査役	原守良
監査役(社外)	須和俊敦

## 株式の状況 (平成30年3月31日現在)

発行可能株式総数	5,600,000株
発行済株式の総数	2,867,500株
株主数	1,055名

## 株主分布状況



## 大株主

株主名	所有株式数 (千株)	出資比率 (%)
JFEスチール株式会社	1,548	54.07
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	321	11.24
JFE商事株式会社	153	5.36
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	127	4.44
京極運輸商事株式会社	63	2.22
JFEコンテナー社員持株会	39	1.37
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	31	1.11
THE HONGKONG AND SHANGHAI BANKING CORPORATION LTD - HONG KONG PRIVATE BANKING DIVISION - CLIENT ACCOUNT	22	0.78
山口 淳一	20	0.71
日新容器株式会社	17	0.62

(注) 持株比率は、自己株式(3,984株)を控除して計算しております。

## 事業所一覧

- 本社／〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町1丁目5番15号 猿楽町SSビル  
TEL. 03-5281-8511 (代) FAX.03-5281-1225
- 大阪支社／〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目25番13号 KS大阪江戸堀ビル  
TEL.06-6225-1670 (代) FAX.06-6225-1675
- 千葉工場／〒260-0826 千葉市中央区新浜町1番地  
TEL.043-261-3381 (代) FAX.043-264-8239
- 川崎工場／〒210-0862 川崎市川崎区浮島町9番2号  
TEL.044-266-3251 (代) FAX.044-276-1410
- 堺工場／〒590-0977 堺市堺区大浜西町9番1号  
TEL.072-238-4231 (代) FAX.072-222-0870
- 水島工場／〒712-8073 倉敷市水島西通1丁目1955番地  
TEL.086-448-3737 (代) FAX.086-448-2615
- 高圧ガス容器工場／〒210-0862 川崎市川崎区浮島町9番2号  
TEL.044-266-3254 (代) FAX.044-276-1757

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月に開催
定時株主総会および 期末配当の基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
臨時基準日	必要ある場合にあらかじめ公告のうえ設定
1単元の株式の数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店 および全国各支店で行っております。

### <住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について>

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### <未払配当金の支払について>

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### 公告の方法

電子公告(当社ホームページに掲載)

[アドレス] <http://www.jfecon.jp>

※事故その他やむを得ない事由が生じたときは、  
日本経済新聞に掲載して行います。

### 「株券の保管振替制度」

関係手続きのご照会先

お取引先の証券会社

## ホームページのご案内



<http://www.jfecon.jp>



JFE コンテナ 株式会社